みやこ町歴史民俗博物館

博物館だより

MIYAKO TOWN DIGITAL MUSEUM
www.miyako-museum.jp

No.114

平成28年5月1日
みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL0930-33-4666
FAX0930-33-4667

新博物館・ここに注目！ 小宮豊隆資料「漱石コレクション」

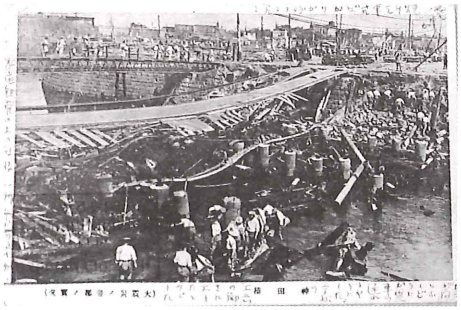
今年は夏目漱石没後百年。漱石ゆかりの事物に注目が集まりそうですが、博物館所蔵の小宮豊隆資料のなかから、漱石ゆかりの逸品をご紹介しましょう。

●寺田寅彦発「震災絵はがき」

「漱石山脈」と形容されるさまざまな才人が集まった夏目漱石門下では、門人同士の交流も盛んで、物理学者の寺田寅彦と小宮豊隆が深い交流を重ねました。

大正十二年（一九二三）十月、欧州留学中の小宮に出された、関東大震災直後の故国の様子を伝える寺田のはがきは「震災絵はがき」と呼ばれて、当時盛んに印刷された貴重な風俗資料です。

この絵はがきは漱石の直接資料ではありませんが、漱石の「縁結び」で生まれた資料といえ、つい先ごろ、熊本地震を経験した現在の私たちも『天災は忘れた頃にやって来る』という、寺田が残した警句を忘れない「縁」としたいものです。



▲資料番号148-238　絵はがき「神田橋（大震災ノ帝都ノ実況）」

博物館友の会 定期総会開催のお知らせ

平成28年度の「博物館友の会定期総会」を次のとおり開催いたします。

会員の皆さんは万障お繰り合わせのうえご出席ください。

■日時　5月15日（日）
　午前10時～
■場所　当館　研修室
■議事　年間事業計画の審議等
■記念講演会
「新展示見どころ解説＆ガイド」
　当館学芸員

5月の歴史講座

【漢詩紀行講座】
5月7日（土）　9時30分～
【古文書講座】
5月14日（土）　10時00分～
【古典かな講座】
5月21日（土）　9時30分～
【みやこ学講座】
5月28日（土）　10時00分～
※日程等変更となる場合があります。
※金曜古文書講座は、5月以降運営上の都合により休講となりましたのでご了解下さい。

3・4月の業務日誌から

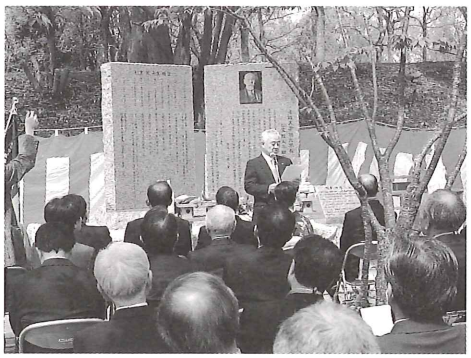
▲藤本孝彦会長から答申書が提出されました。

夏目漱石ゆかりの「小宮豊隆資料」が、町の文化財指定を受けることになり、3月31日（木）、みやこ町文化財保護委員会から指定に伴う答申書が提出されました。

この資料を見るため県外から訪れる方も多く、今後も貴重なみやこ町の「宝」として未来へ伝えてゆきたいものです。

4月9日（土）、博物館横の小笠原神社境内で、法政大学初代学長で豊津ゆかりの松室致先生顕彰碑の除幕式が行われました。

除幕式には同大学の田中優子総長も参列し、先生のすばらしい業績を再確認する機会となりました。



▲除幕式には多くの関係者が参列しました。

▲大きな石棺にびっくり！多くの質問を受けました。

4月10日（日）、犀川花熊で「馬ヶ岳花まつり」が開催され、学芸員の案内による「三ツ塚古墳群」の史跡見学が行われました。

町内外から多くの参加があり、1万年以上前の花熊の歴史に思いを巡らせる1日となりました。

4月13日（水）、みやこ伊良原学園伊良原小学校の児童が博物館へ見学に訪れました。町出身で、特に大きな業績を残した人物を紹介する「先人の殿堂」コーナーに興味深々の様子でした。

▲町の先人10名の前で。11人目は未来のあなたかも！

みやこの歴史発見伝87

豊前国府跡御所地区

―出土品から探る豊前国の中心都市の姿―

みやこ町教育委員会は、昨年五月から六月にかけて国作にある豊前国府跡御所地区の発掘調査を行いました。今回は、この調査の成果をご紹介します。

豊前国府跡について

今から千三百年ほど前、日本は六十あまりの国に分けられ、それぞれの国には「国司」とよばれる長官が任命されました。

▲豊前国府跡御所地区　土器出土状況

国司は、「国庁」とよばれる役所で仕事をしましたが、この国庁が置かれた都市を「国府」と呼びます。これを現在の行政組織に置き換えると「国司」は知事、「国庁」は都道府県庁、「国府」は県庁所在地にあたります。豊前国府は、豊前の国（現在の福岡県東部から大分県北部地域）の国庁が設置された都市であり、当時の政治・文化の中心都市でした。

豊前国府跡の発掘調査

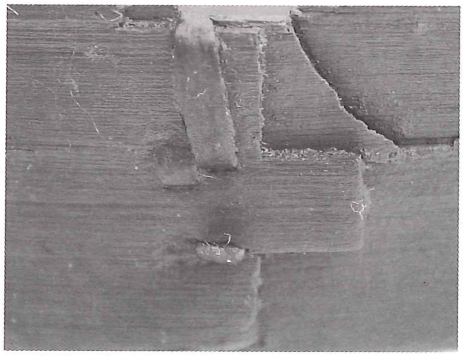
豊前国府の跡地は永らく不明となっており、所在地については、みやこ町内外にいくつかの候補地が考えられてきました。その候補地の一つである国作地区では、昭和五十九年から実施されてきた発掘調査の結果、当時の役所関連施設とみられる遺構が発見されました。近くに国分寺跡が位置することなどから、この施設が国庁の跡と考えられ、現在、調査結果に基づいて建物跡が整備されています。

発掘調査で内容が確認されている国府跡は、全国でも十か所程であることから、国府を発掘することが、いかに重要なことであるかが分かります。

御所地区の発掘調査

今回、発掘対象となった調査地は、国府の中で最も重要な施設である「政庁」に近く、調査面積は約九〇㎡と比較的小規模なものでした。地表面から約二mまで掘り下げたところ、奈良時代から平安時代の溝や柱穴などの遺構が検出され、ここから大量の土器が出土しました。

また、この調査地は、晴れた日でも地下水がにじみ出るような湿地であったため、遺物が常に水に浸された環境が保たれ、通常であればすぐに腐ってしまう木製品や獣骨などの遺物も当時の状態のまま出土しました。これにより、木製品は細部まで良好に保存され、特に曲げ物などは、板を曲げて桜の樹皮で縛った箇所が確認できるなど、当時の木工加工技術を研究する上で、貴重な事例となりました。また大人用と子ども用とみられる下駄が各々片方ずつ見つかり、当時の人々の生活をリアルに感じることができる遺物として注目されます。

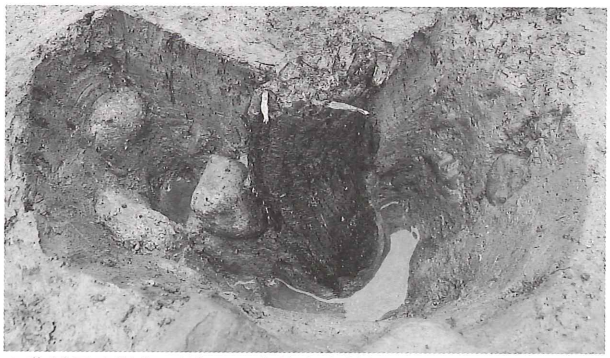


▲豊前国府跡御所地区　出土木器（曲物/部分）

また地下水の作用により、建物の掘立柱（地面に穴を掘り、差し込んだ柱）が腐らずに当時の状態で出土しました。建築部材が腐ることなく埋設された状態で出土することは非常に希なことであり、先の木製品と併せ貴重な事例といえます。

遺物から探る古代の物流

今回の調査では、当時の政治の中心地であった奈良の遺跡や九州では大宰府など、政治的な拠点施設に出土例が限られるものが多く含まれていました。その一つが、漆の付着した須恵器の壺の破片です。当時、漆は貴重品であったため、最後まで使い切るために、壺の上部を割り、底部の漆を掻き取った痕跡がみられます。また今回の調査では、青磁や白磁などの中国産陶磁器が出土しました。これらの遺物は、同時期の遺跡でも頻繁に出土するものではなく、役所跡など出土する遺跡がごく限られる、注目の遺物といえます。



▲豊前国府跡御所地区　木柱出土状況

今回の発掘調査は、小規模ながらも、当時の物流や「モノづくり」を研究する上で非常に貴重な資料が確認されました。これらの出土遺物は、このみやこ町が、千年以上前から豊前国の政治・経済・文化の中心地「みやこ」であったことを物語っているようです。（井上信隆）

▲豊前国府跡御所地区出土須恵器（漆付着）